

# 永山岳（2046）安足間岳（2194）当麻岳（2076）

（メンバー）

L 渡辺、SL 宇田、酒井（装備）、八重樫（会計L）、太田（気象）、水江（記録）  
増川（会計SL）

（日程）

2022年9月10日（土）～11日（日）

10日（土）川上ファミリーオートキャンプ村へ移動。バンガローを2棟借りる。昼過ぎに到着のため、川上町の街歩きを楽しんだ後、早めの夕食会。夕食会場は一見温室のような広い別棟が貸し切り状態だった。約束の8時には就寝。

11日（日）3：00起床～4：00キャンプ村発

5：05 愛山溪温泉より登山開始

紅葉の時期には少し早い人気山塊だけにすでに数台の先着があった。隣に駐車している熟年男性3人のパーティは北鎮岳まで行くという。一足先に出発した。事前の予報通り晴天のようだ。標高はすでに1010mで気温は10度。ダウンを羽織ってスタート。イズミノ沢右岸を進み、1120mで丸木橋を渡ると三十三曲の急登だ。まだ体が起きていない中で最初の試練だ。

6：20 沼ノ平分岐

三十三曲を登りきると沼ノ平分岐に出会う。少し進むと永山岳への登山道がはっきりと見渡せる。ここから永山岳と当麻岳に挟まれた沢に向かって標高差で50mほど下り、あとはひたすら我慢の登りが続く。高度が上がるにしたがって展望が開けてきて、沼ノ平の湿原が見渡せる場所では歓声上がる。晴天の上、風もなく申し分ない。

8：00 銀名水

およそ1800mで右手の谷に近づいた地点が銀名水。上部に雪溪がないようなのでこの時期には水は枯れているのだろう。永山岳まではもう少しだ。

8：45 永山岳

山頂直下を通過する。

## 9：25 安足間岳

大きく開けた沢の源頭部分を右手に見ながら登る。安足間岳から下ることを考えるとピークを踏まなくても沢の源頭をトラバースしていくことができれば時間の短縮になるのに、などと考えながらようやく安足間岳のピークを踏んだ。愛別岳の荒々しい姿を見ることができ、長年の念願がかなった。愛別岳に向かう細尾根には数人の登山者を確認できた。また、分岐にも数人いた。さらにその奥の北鎮岳は手の届く位置だ。表大雪の大展望に加え、夕張岳の特徴のある山塊や道東方面の山々もうっすらと眺めることができ、三座同定に忙しい。せめて愛別岳の分岐まではという気持ちをぐっところえて下山開始。

安足間岳からはひたすら下りとなる。左手に大塚、小塚、その先には旭岳がどっしりと構える。正面には常に沼ノ平の湖沼群が広がり、まったく目を飽きさせない。中岳温泉はたぶん大塚にさえぎられて見えないのだろう。その先に両岸が切り立ったピウケナイ沢が続いている。

## 11：05 (1800m) 昼食

大きな岩稜の当麻岳を通過して約 1800m地点の風を遮ることができる岩陰で昼食休憩。

## 11：45 当麻乗越

乗越とは峠という意味らしい。ここからも急な下りが続くが沼ノ平が近づくにつれて登山道の傾斜は次第に緩くなってくる。

## 12：40 六ノ沼

沼の周辺は木道がしっかりしていて快適だ。また、木道以外の登山道も乾いていて何の問題もなく歩けた。

## 13：05 沼ノ平分岐

澄み切った青空のもと輝いていた湖沼群に別れを告げ再び沼ノ平分岐に戻ってきた。あとは愛山溪温泉に向けてひたすら下るだけだ。登りで苦戦した三十三曲をひたすら下る。イズミノ沢の音が次第に近づいてきた。

## 14：05 愛山溪温泉

リーダーの計画ぴったりの時間に到着。リーダー曰く、過去の経験をもとにメンバーの力量を加味して設定した時間だそうだ。途中トラブルがなかったのも幸いだったが、お見事の一言に尽きる。愛山溪温泉で汗を流して帰路に就いた。

今回の山行は天気にも恵まれ表大雪の大展望を満喫できた。計画を立てたリーダーとメンバーの体力に感謝の二日間だった。



登りの途中で沼ノ平をバックに



沼ノ平



銀名水



安足間岳に向けて最後の登り



安足間岳山頂



愛別岳に続く細尾根